発達障害のある学生の声から

LDの学生から

私は、文字を読むことがとても苦手です。大学では、講義を録音しました。パソコンで文字を読み上げるソフトが出たので、それから文章はテキストに起こし読み上げさせて理解しました。またデジタルカメラの登場で、板書なども手軽に撮影して理解できるようになりました。録音した講義は、大学までの電車の中で聞き返し勉強しました。私なりに、文章理解のためのバイパスづくりを工夫してやって来ましたが、人のちょっとした「こころづかい」に勝るものはないと感じています。

ADHDの学生から

大学で困った点として、履修登録や奨学金関連の書類を期日までに提出できない、ということがありました。また学期末の試験でも、期日を間違えてしまう、必要な参考文献を忘れてしまうということがありました。最近になって手書きの負担が少ない電子手帳を使ってみたところ、予定管理ができるようになり、期日を間違えることがだいぶ少なくなりました。もし周囲に電子手帳の使用も含めて予定管理のスキルを教えてくれる人があれば、もっと早くに、この問題は解決されていたと思います。

自閉症の学生から

大学に入学することを決めた後、私は合格した大学に、自閉症であることを伝えました。大学病院の診断書を提出したこともあって、学生課の事務の方が相談にのってくれ、学部の先生方に配慮をしてもらえるようにお願いしてくれました。どんなことを配慮したらいいのかを聞かれ、「さりげなく、何気なく」困っている時に、助けて欲しいことを伝えました。入学後の実験や共同作業の時間には、私が困っていると担当の先生が何気なく助けてくれ、とても助かっています。

発達障害のある学生支援ガイドブック

―確かな学びと充実した生活をめざして―

ジアース教育新社より平成17年5月中旬 発刊

第１章　発達障害とは

発達障害のある学生の理解に向けて
小中学校では今
大学でも支援が必要な理由
大学教員の理解を促すために

第2章　発達障害のある学生に対する支援

障害のある学生の支援の現状
発達障害のある学生に求められる支援
学習障害のある学生に対する支援
ＡＤＨＤの学生に対する支援
高機能自閉症の学生に対する支援

第3章　卒業や就労・進学への支援

論文作成、卒業に向けた支援
就労支援における課題
大学における就労に向けた支援の実際

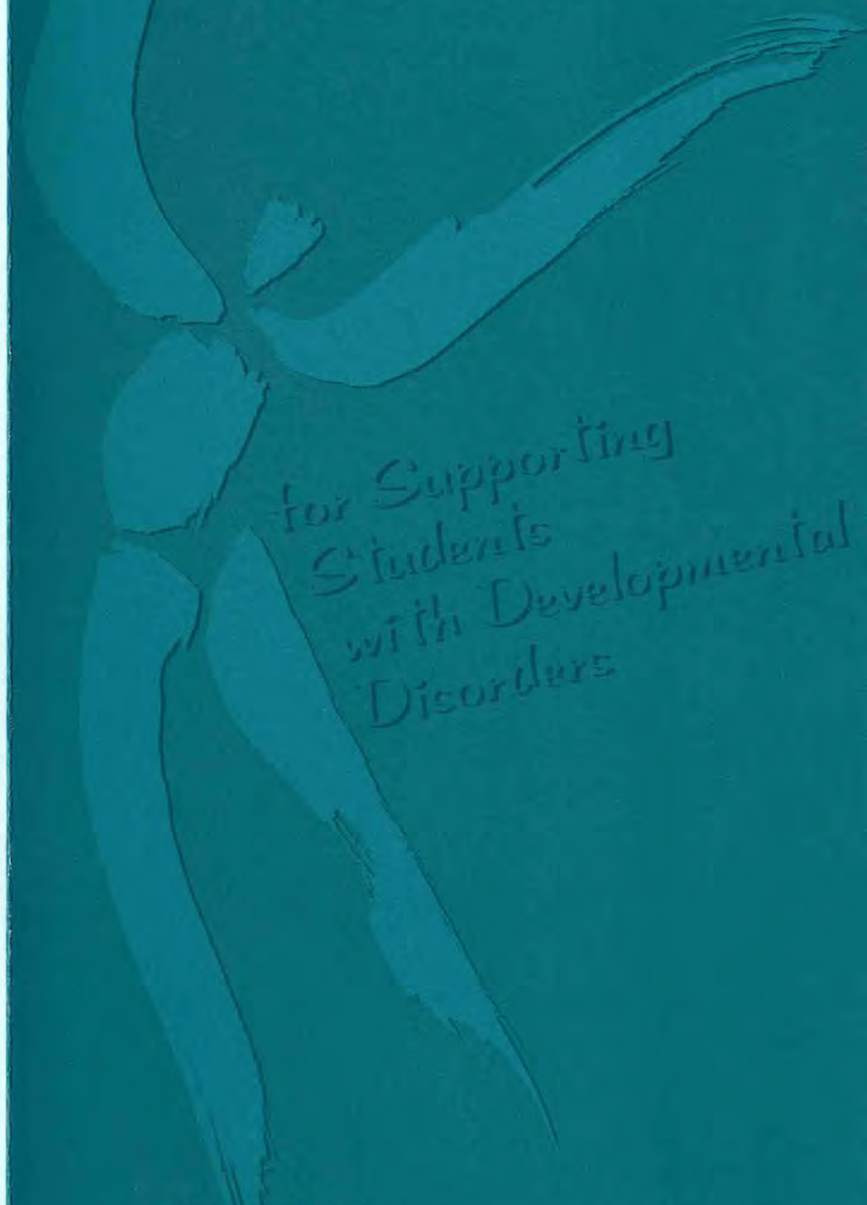
第4章　障害のある学生の声から

ＬＤ本人から
ＡＤＨＤ本人から
高機能自閉症本人から

監修　小塩允護
編集　徳永　豊・佐藤克敏
発行　独立行政法人　国立特殊教育総合研究所
〒239-0841　神奈川県横須賀市野比5-1-1
TEL.046-839-4121(代表)　FAX.046-849-5563
URL　http://www.nise.go.jp

発達障害のある学生を支援するために

―確かな学びと充実した生活をめざして―



独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

「教育の構造改革」の一貫として、大学における構造改革が進められています。大学などの高等教育機関は、学生の多様な個性や能力から生じる学習ニーズに的確に応じることが求められています。この多様な学習ニーズには、障害を原因として生じるニーズも含まれます。

「発達障害者支援法」が、平成17年4月に施行されました。この法律では、発達障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害など）のある学生の状態に応じて、大学及び高等専門学校は、適切な教育上の配慮をすることを求めています。

発達障害は、外見上からは障害と理解してもらえない場合が多く、周囲がどのように理解していくか、学習上のニーズや行動上の難しさについて、どのように支援していくかが大きな課題となります。大学などにおいてこれらの学生への支援体制を整備していくことが必要になります。

LD（学習障害）：「学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。」

ADHD（注意欠陥／多動性障害）：「ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、７歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。」

高機能自閉症：「高機能自閉症とは、３歳くらいまでに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症うち、知的発達に遅れを伴わないものをいう。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。」

for Supporting Students with Developmental Disorders

Question & Answer

Q1 発達障害ってどんな障害ですか？

A：幅広い障害を含む用語で、このパンフレットでは、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥／多動性障害（ＡＤＨＤ）、高機能自閉症もしくはアスペルガー症候群などを「発達障害」としています。文部科学省では、これらの障害を右下のように定義しています。

Q2 大学に発達障害のある学生は在籍していますか？

A：平成15年に国立特殊教育総合研究所が行った首都圏の大学・短期大学301大学の学生相談室を対象とした調査によると、発達障害のある学生の相談は、40大学、96名でした。全ての発達障害の学生が 学生相談室を利用するわけではないこと、学生相談室の担当者が必ずしも発達障害に詳しいわけではないことを考えると、ここで示された数以上の学生が在籍しています。

Q3 大学生に支援は必要なんですか？

A：発達障害のある学生が示す困難は、中枢神経系の機能不全に起因しています。能力的には高くても、適切に環境に対応できないと考えられます。これは、ごつごつした岩がある中で、野球をすることを求められているのと同じ状態です。そのため、他の人と同じように野球をするために、グランドを平らにならす必要があります。発達障害のある学生への支援とは、このような障害に起因して生じている岩を取り除いて、能力を発揮できる環境を作ることです。

Q4 発達障害のある学生にはどんな支援が必要となりますか？

A：発達障害のある学生が示す困難として、対人関係のトラブル、学業上の問題、就労困難、行動の問題などがあります。心理面での問題については、学生相談室等でのカウンセリングにより、対応することが必要です。しかしながら、これだけでは大学生活や授業等で示している課題を解決できません。大学の教員や事務職員と連携しながら対応することが必要となります。大学生活や授業において、大学として出来る支援について考える必要があります。

Q5 発達障害のある学生の支援を行うために、大学で課題となることは何ですか？

A：次のようなことが課題となります。

①発達障害を診断できる医師が少ない。また、相談室のカウンセラーが必ずしも発達障害に詳しいわけではないため、発達障害に気づかない。

②本人が、学習や生活上の困難が発達障害に起因していることを知らないことが多い。

④発達障害の場合、外から見てもわかりにくく、周囲の人に支援の必要性について理解してもらうことが難しい。また、本人自身もあからさまな支援はいやがる傾向がある。

⑤大学在学中だけでなく、卒業後の進路に向けた支援が必要である。障害を認識し、受け入れること、自分に合った職業を見つけることが必要となる。